

宝塚市自立支援協議会 専門部会 「こども部会」
令和元年度 活動経過報告

- I. 開催日時 第1回 令和元年6月13日(木) 13:30~15:30 出席者18名
第2回 令和元年8月8日(木) 13:30~15:30 出席者18名

II. 要旨

第1回こども部会 (R1.6.13)

1. 今年度の常任委員の自己紹介

2. 障害福祉課より (昨年度末全体会の報告等)

昨年度末の全体会では講演を行わず、専門部会に関する報告と意見交換のみのプログラムで進行した。

- ・こども部会：たからっ子ノートの活用ガイドブックの作成、きょうだい児支援の講演会について、放課後等デイサービスの現状について
- ・けんり・くらし部会<地域生活グループ>：ワーキング「精神保健医療福祉連携推進会議」では、精神科病院から退院しようとしている人に向けた社会資源紹介冊子の制作を進めている。
専門部会：重症心身の方に地域生活での困りごとについてヒアリングを行った。医療に関することやヘルパーの不足が課題として挙がっている。
- ・けんり・くらし部会<地域移行グループ>：精神科病院に任意入院している方の地域移行支援の促進について協議。病院と相談支援事業所の連携の強化、ピアサポーターの活用促進が必要。今年以降は相談支援事業所による精神科病院の見学会等を企画し、相談支援が核となって連携を深めていく。
- ・しごと部会：合理的配慮に関する各機関からのフィードバック、福祉事業所合同説明会、雇用啓発セミナーについて報告。今年度の福祉事業所合同説明会は8月末の開催を検討している。昨年度立ち上がった共同受注窓口（グッドジョブ）の活動も今後後押ししていく。
- ・全体会委員による意見交換

地域移行について：もっと相談支援事業所と病院とが積極的に連携してほしい。地域に出たいと思っても不安が強く踏み出せないことが多いため、外に出れば楽しいことがあると思ってもらうことが大事。

共同受注窓口について：設立に至ったことは大変喜ばしい、今後も色々な仕事に挑戦してほしいと応援の言葉があった。

その他全体的な意見

当事者団体の会員数が減少傾向にあり、困りごとの実情が把握しづらくなっている。声なき声を拾う取り組みを考えていかないといけない。

自立支援協議会会長より障碍のある方のトータルケアについて自立支援協議会で検討してもいいのではと意見があった。

- ・連絡事項

市民福祉金の代替施策について；廃止に伴い積み立てていた基金の一部を共同受注窓口への補助に充てる。

3. たからっ子ノート活用ガイドブック

昨年度作成したたからっ子ノート活用ガイドブックについて、カラー印刷した保存版を300部作成した。市内小中学校に各3部、幼稚園に各1部、市内保育園に各1部、市内相談支援事業所各1部、こやの里特別支援学校・宝塚養護学校・阪神昆陽特別支援学校に各3部配布。合計約190部を配布予定。残りの配布場所について提案があれば適宜追加していく。データは市ホームページに載っている為、実際に使用する分については各自ホームページからダウンロードしてもらう。

- ・福祉事業所は相談支援と繋がっているのが個々に配布は行わない。しかし、今後はたからっ子ノートを持っている方々が増えていくと思うので、必要に応じてガイドブックの増刷を行うことは可能である。

4. 放課後等デイサービスの利用に関する実態調査について

放課後等デイサービスと学校との連携や送迎の問題、学校の現場としてどう考えているか把握する為にアンケート調査を行った。37校中25校からの回答を得ている。

① 放課後等デイサービスの利用状況

小学校は10人以上が放デイに通っているところが10校以上あるが、中学校になると少なくなる。

小学校でデイサービスが終わってしまうことが多い。また、支援級だけでなく、通常級の児童も通っている。管理は担任がしていることが多く、学校側で管理しているところは少ないが、事務員や校長、特別支援担当の教員が連絡先の一覧を持っている学校もある。

送迎については決まりを設けていない学校が多い。送迎車の待機場所は校内の駐車場が多い。

②送迎の問題について

■危険な事

子供が一人駐車場で待っており危険な時があったり、下校する児童と送迎車の導線が同じで危険な場合、デイサービスの送迎車が何台もあると、どの車に子供を乗せるのか分からない時がある等の声が挙がった。デイサービスを利用している児童の増加に伴い、車の台数も増えてきている為、何かしら対策を講じていきたいとは考えているが、なかなか難しい。

■困ること

保護者や事業所と連絡が取れない時や警報発令時などの対応等

■職員確認

職員が名札を付けていない、車に事業所名を書いていない事業所がある。

また、迎えに来る事業所も教室・玄関・駐車場等まちまちであり、教員がそれぞれに把握する必要がある。

② その他

- ・デイサービスが学校と連携を取らずに、保護者に発達の遅れがあると伝えたり、支援級に入ったほうがいい等と勧めていることがある。進路の話等も放デイの職員と相談していることもある。保護者は放デイを信頼している場合も多いため、福祉と教育の連携が一層大切である。
- ・年度初めに、放課後等デイサービスの職員と学年代表、担任、特別支援コーディネーターでデイサービスの様子や学校での様子などを共有している学校もある。

○今後送迎のルールについて放デイ事業所宛での注意喚起文を作成し、配布の準備を進める。

第2回こども部会(R1.8.8)

1. 放課後等デイサービスの学校への送迎に関する課題について

事務局：厚生労働省が定めた放課後等デイサービスのガイドラインについて説明

●「学校との連携について」という部分に

子どもに必要な支援を行う上で、学校との役割分担を明確にし、連携を積極的に図る必要がある。年間計画や行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認、引継ぎの項目など、学校との間で情報を共有しておく必要がある。送迎を行う場合は、子どもの安全確保に留意することは当然であるが、特に学校の授業終了の迎えにあたっては、他の事業所の車両の発着も想定されることから、事故等が発生しないよう、細心の注意を払う必要がある。その為、設置者及び管理者が送迎車の対応について学校と事前に調整をすることは必要である。下校時のトラブルや子供の病気、事故の際の緊急連絡体制について、事前に学校と調整し、児童発達支援管理責任者や送迎を担当する従事者に対し、徹底しておく必要がある。学校との間で、相互の役割の理解を深める為、⑦保護者の同意を得た上で、学校に伝えている外部や団体との調整の役割を担っている、直接支援コーディネーター等から個別の教育支援計画についての情報提供を受けるとともに、放課後等デイサービスの放課後等デイサービスの計画書を特別支援教育コーディネーター等へ提供する。

④個別の教育支援計画が作成されていない子どもにあつては、保護者の同意を得た上で、特別支援コーディネーター等とお互いの支援内容の情報交換の連絡を取れるよう調整しておく。

⑤学校の行事や授業参加に児童発達支援管理責任者と分担して積極的に参加するなどの対応を取ることが望ましい。

と記載されている。

また、事業所が、県に提出する自己評価表にも、「学校との情報共有、年間計画、行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認、連絡調整を適切に行っているか」という項目がある。

更に「障害福祉サービス等報酬改定に関するQ&A」の中で、放課後等デイサービスにおける学校と事業所間の送迎加算の適用に関する条件として、学校に送迎する場合は学校に連絡を取る必要がある等の加算の考え方もある。

このように仕組みを作っているが、現状は送迎時の安全確保等の課題があるため、放デイ事業所への注意喚起文の作成及び配布をこども部会にて検討している。

部会長：配り方や宛先をどうしていくのかは追々検討することとし、まずは用紙の説明。

委員：放課後等デイサービスの送迎についての注意喚起文について。アンケートの中で出ている「放課後等デイサービスへの送迎時に児童の下校と重なり危険である」、「駐車場で待機の車が多くなり危険である」、「交通法規の順守」や「送迎の際は児童生徒の安全に十分注意して送迎ください」と簡単に書いてあるが、もう少し詳しく書いてもいいかもしれない。

もう一つが、送迎の時の身分確認のことを書いており、「放課後等デイサービスの送迎時に職員の身分証の確認が出来ない」、「車に放課後等デイサービスの車証がない」との意見があり、「車には放課後等デイサービス名が分かるように表示をしてください」、「職員の方は、必ず名札をつけてください」と書いてある。

お迎えの時間や場所については、学校の受け入れが間に合わないため、まだ記入していないが、後々は入れていく必要があると考えている。下校時間等はデイと学校の間で連携を取る必要があるため、そこはしっかりと説明して取り組んでいく必要がある。注意喚起と連携のことは分けた方がいいと思っている為、まずは安全のことを考え、次は連携のことを伝えていく。

コーディネーターに説明して、デイサービスと連携できるようになれば、個別支援計画についても連携が取れるようになるだろう。連携の道筋をつけていくことが大切である。

事務局：書類の書き方について、宛名は、「放課後等デイサービス事業所長 様」とする。

「交通法規の順守」と「事業所名が分かるようにすること」の2点を伝えるべき軸とし、文章の微修正等を行っていく。

部会長：「お迎えの時間等を入れるのはどうか」との意見もあるが、教育と福祉の連携はもう少し話し合った方がいいと思うので、今回の注意喚起文には入れない方向にする。

事務局：文章は今回の案に少し修正が加わるかもしれないが、早ければ8/27の校長会で説明して頂き、運動会時期の前に各学校に配布される予定となる。

2. 今年度 こども部会テーマ

今後のこども部会のテーマ

こども部会のテーマとして取り上げていけたら良いと思う案

1. インフォーマルなサービスとしての居場所作り

福祉サービスの制度の外で余暇を過ごせる場所が実現できないか考えていきたい。

2. 放課後等デイサービスや日中一時支援の事業所説明会

多くある事業所の中で、どこの事業所がどのような療育や活動をしているかを知る機会を設けられないか検討したい。事実、しごと部会で毎年開催している福祉事業所説明会は好評である。

3. 特別支援学校以外の学校へ通学する方（高校生）の為の就労訓練の場の提供

支援が必要ではあるが、支援学校に属していないために就労の訓練ができずに困っている人もいと聞いているため、検討したい。

4. 世の中のルールやお金の使い方の問題がある方への支援

本人への分かりやすい研修会の実施や冊子を作る等の取り組みを行いたい。

5. 西谷地区の通学サポート

小学校では支援級の子どもの送迎が必要となっているが、遠くまで往復徒歩で連れて行かなければならないことがある。保護者の負担が大きい、代わりになるサービスもないため、解決策を検討できればと考えている。

6. 性教育

障害のある人への性教育について、講演会を開催できればと思う。こども向け、保護者向け等どのような形にするかも含めて検討できればと思う。

意見

1.

○子どもだけではなく、大人になっても利用できる場所があれば良いと思う。

○誰が望んでいるのか明確にする必要がある。本人が望むのであれば考えていきたい。(保護者支援でない)

○実現したとしても、こども部会で継続して運営することはできないのでどこかと協力して進めなければならない。

○障害者だけではなく、誰でも利用できる場所でもよいと思う。

○仕事の後に利用できる、趣味の場の存在は良いと思う。

3.

○子どもと大人の境目の方で、困っている人がいるだろうと思う。

就労支援の枠組みの中で、すでに大人では利用できるものが相互利用できるように一緒に取り組めたら良いのではないかな。

○特別支援学校では確かに就労経験の場がある。高等部1年生で、校内実習があり、2年生から実習が始まる。作業所や企業に実習に行く。

特別支援学校では進路指導部に繋がりがある。

結合実習として、雇用が前提での実習もある。

○就労支援の事業所に在学中に体験利用はできるのか。できる所もあるが、情報を知らないと思う。体験したいと思っても、学校を通していない場合に、受け入れてもらえるかどうかは分からない。

○支援学校であれば、学校を通して、多くの事業所の情報を受け取ることができる。

○相談支援事業所と繋がっていれば、相談支援事業所から伝えてもらえばよいのではないかな。

○保護者も連携し、情報集めをしていく必要はある。

○「あとむ」の対象は基本的に大人であるが、高校生でも相談や体験の利用ができる等の情報を提供してもらえたら。

○体験は福祉サービス内で利用するのか。→サービス外である。

○体験利用したいからといって、16歳くらいからアルバイトをするのは早いという意見もある。

○このような対象者は多くいるのか。→発達障害の方や、特別支援学校以外に進まれる方も多い。

○放課後等デイサービスの利用もなく、普通校に通っている場合であると、福祉に繋がっていない人もいます。

5.

○西谷地区での問題は、ニーズがあるところに対して具体的な支援策が必要であると思う。

○インフォーマルなサービスが必要。地域の力を借りるしかないのでは。

○放課後等デイサービスの利用も送迎を断られ、利用できないことの方が多い。

○個別のケースは学校、保護者及び相談支援を含めて話し合っていく必要がある。

6.

○学校では個別で教えている。川西子ども家庭センターにプログラムを組んでもらう場合もある。

○相談する場所が分からないという人もいます。

○施設では月に1回性教育を行っている。身体を清潔にする、手を洗うことから、高校生になると、交際でトラブルになることもあるので、性のことをタブーにするのではなく、本人が困らないように支援している。

講師を呼んで支援者向けにも教育を行っている。曖昧にせず、隠したり相談できないような環境にしないようにしている。一定の効果は感じている。

○ニーズとして「距離感の計り方が難しい」、「プライベートゾーンについて自分の物は触ってもよいが、他者のものを触ってはいけない」等、悩みを抱えている人は一定数いるのではないかと。

○部会の一つのテーマとして取り上げても良いのではないかと。